

新たな集落 河原の暮らし

■基本方針

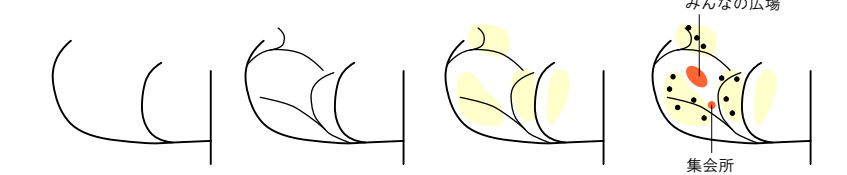
- 「あんしん」
 - 被災して失ったこれまでの暮らしを取り戻す環境づくり
 - 次世代基準の住宅性能により、被災者にかかるランニングコストを低減
- 「あたたかさ」
 - 地域特有の気候に配慮した住戸配置
 - 県産材をふんだんに利用したあたたかみのある木のすまい
- 「ふれあい」
 - 居住者間のコミュニケーションや高齢者の見守りに配慮
 - 地域コミュニティと集落をゆるやかにつなぎ、親しみのもてる団地へ
- 「みらい」
 - 子育て世代や移住者も心地よく暮らせる魅力ある未来に繋げる住環境を整備

■河原敷地特性

- 前面道路から3~6m高い場所にあり、周辺地域との接点を得にくい
- 維持管理された良好な栗林を有している

■配置ダイアグラム

- ①メイン通路の設定 ②小道の設定 ③区域の設定 ④ユニットの設定



12戸の小単位集落を駐車場計画に合わせてユニット分けし、敷地入口に集会所、中心部にみんなの広場を設け、地域と繋がる集落を形成します。

■栗林

- 手入れのゆきとどいた栗の木を一部残し、栗の収穫イベント等を通じ、近隣住民との交流を促します
- 西原村への子育て世代定住促進として、増築可能なスペースを残しています

■「みんなの家」
西原村の大工さんをつくる集会所

団地と地域をつなぐ「ゲート」としての機能があり、集会所を通り抜け広場へ導かれます

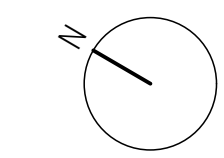
建具：基本常時開放
(季節や使い方によって建具で閉じます)

床：全面土間コンクリート

最小限のキッチンとトイレ、収納は室内に

西原村の大工さんや職人さんと共につくります

住民の意見を取り入れ、長く愛される集会所を目指します



全体配置図 S=1:400

■「ふれあい」のある住戸配置

高齢者向けの2LDKと子育て世代向けの3LDKの置を混在させ多世代間の交流を促します

■植栽計画

西日と台風風の西風をふせぐ常緑樹、夏の日差しをやわらげ冬の太陽光を通す落葉樹を計画

■庭

- 住戸間の庭はゆるやかに繋がっています
- 住民おもしろい植栽や菜園をつくり上げていくことで集落に広がる「みんなの庭」になります
- 植栽の管理や清掃活動を通じて集落コミュニティの形成につながります

■歩道 みんなの小径

回遊性のある歩道を整備します

■まつぼり風 対策

春と秋に山から吹き降ろす地域特有の強風に対して影響を受けにくい西側に玄関を配置

■「あんしんな」住戸配置

崩落や転落など、暮らしに不安を抱かぬよう高低差の大きい崖上には住戸を配置しません

■みんなの広場

季節を感じる植栽計画とし、住民の憩いの場や地域住民との交流場になります

■駐車場

- 道沿いに駐車場を設け、敷地の合理的な利用をします
- 車道と歩道を分離し安全な環境を目指します
- 2台/戸の駐車場を住戸ごとに配置

